

スクリーンに叩きつける、伝えきれない**沖縄**

2012年度
テレビジャーナリズム
年間最優秀賞

第18回
平和協同ジャーナリスト
基金奨励賞

第4回 陸・高円寺
ドキュメンタリー
フェスティバル大賞

ギャクシー賞
テレビ部門
優秀賞

平成25年 民間放送連盟賞
九州沖縄地区報道部門
最優秀賞

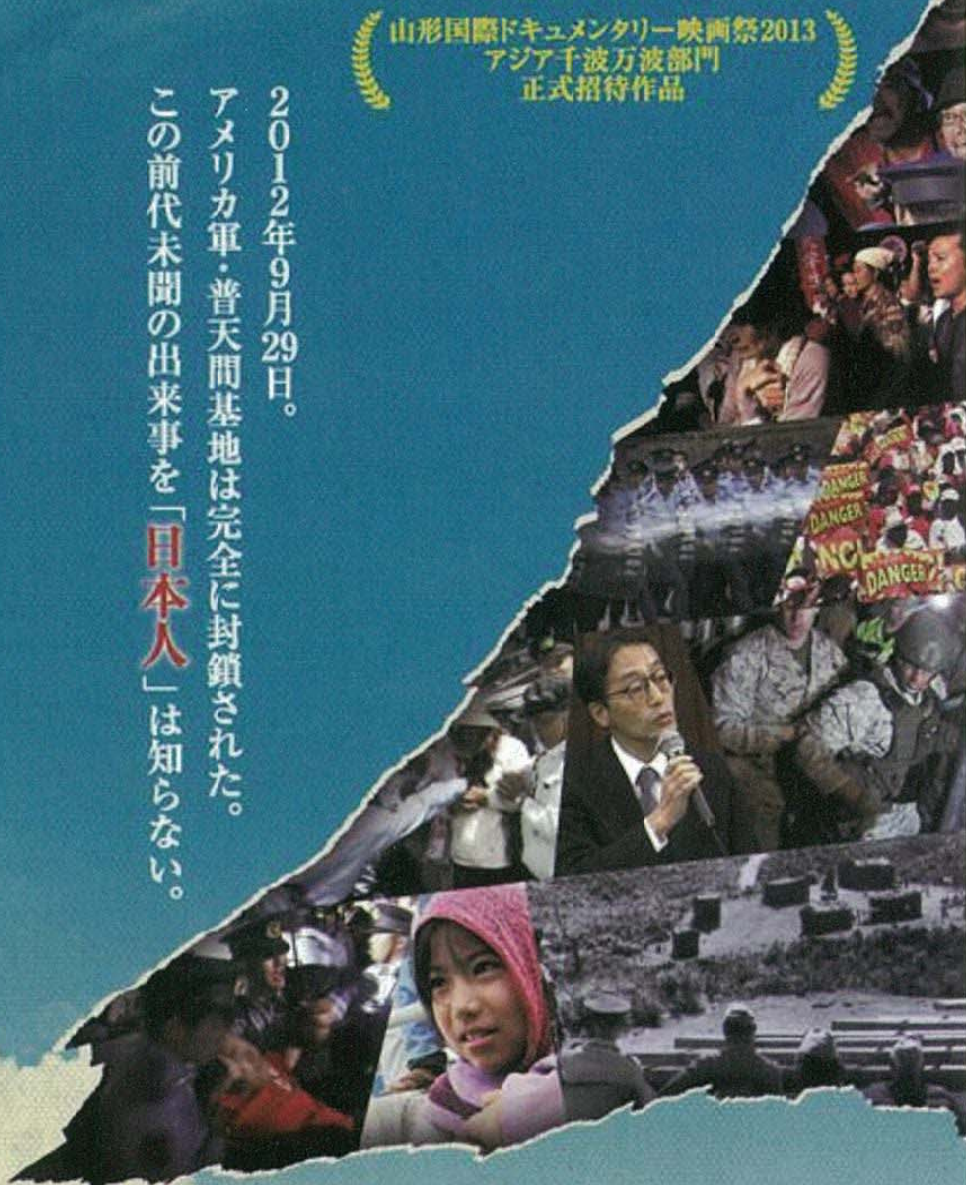
2013年
日本ジャーナリスト会議
JCJ賞

PROGRESS賞
九州沖縄地区
1位

山形国際ドキュメンタリー映画祭2013
アジア千波万波部門
正式招待作品



2012年9月29日。
アメリカ軍・普天間基地は完全に封鎖された。
この前代未聞の出来事を「**日本人**」は知らない。



標的の村

標的の村／友の碑

※どちらか1作品

前売り一般

1200円(当日1500円)

前売り大学生以下

1000円(当日1200円)

ナレーション：三上智恵 音楽：上地正昭 構成：松石泉 題字：金城実
編集：寺田俊樹・新垣康之 撮影：寺田俊樹・QAB報道部 音声：木田洋 タイトル：新垣政樹 MA：茶畑三男
統括プロデューサー：賀教朝夫 プロデューサー：巖花 尚
監督：三上智恵
制作・著作：琉球朝日放送 配給：東風
2013年|HD|16:9|日本|91分|ドキュメンタリー

とき：7月5日(土) 上映：①10:00～ ②13:30～ ③18:30～

ところ：松江市民活動センター5F 交流ホール



公正中立などありえない。
なぜなら情報は視点なのだ。主観的で当たり前。
ところが現在のマスメディアは、
ありえない公正中立を偽装している。
特に大メディアになればなるほど、
この建て前は崩せないのだろうか。

……僕のその思いを、この作品はあっさりと覆した。
全編にみなぎる人々の怒りと悲しみは、
撮影クルーや取材する記者たちの
怒りと悲しみの声でもある。
すがすがしいほどに主観全開。それでいい。
だってそれが本来のメディアなのだから。

—— 森 達也 (作家・映画監督)

日本は未だにアメリカの植民地じゃないか。
それが沖縄の現実だ。
その最も象徴的な理不尽さに闘いを挑んでいる
東村高江の人々。
米軍の軍事訓練の標的にされながら
生活するその過酷な日常は
殆ど報道されず、黙殺されている。
この映画はそれを訴える。
これは僕らの現実でもあり
高江の人々の闘いは僕らの希望なのだ。

—— 遠藤ミチロウ (ミュージシャン)

アメリカ軍・普天間基地が封鎖された日 全国ニュースから黙殺されたドキュメント

日本にあるアメリカ軍基地・専用施設の74%が密集する沖縄。5年前、新型輸送機「オスプレイ」着陸帯建設に反対し座り込んだ東村(ひがしそん)・高江の住民を国は「通行妨害」で訴えた。反対運動を委縮させるSLAPP裁判だ。わがもの顔で飛び回る米軍のヘリ。自分たちは「標的」なのかと憤る住民たちに、かつてベトナム戦争時に造られたベトナム村の記憶がよみがえる。10万人が結集した県民大会の直後、日本政府は電話一本で県に「オスプレイ」配備を通告。そして、ついに沖縄の怒りが爆発した。2012年9月29日、強硬配備前夜。台風17号の暴風の中、人々はアメリカ軍普天間基地ゲート前に身を投げ出し、車を並べ、22時間にわたってこれを完全封鎖したのだ。この前代未聞の出来事の一部始終を地元テレビ局・琉球朝日放送の報道クルーたちが記録していた。真っ先に座り込んだのは、あの沖縄戦や米軍統治下の苦しみを知る老人たちだった。強制排除に乗り出した警察との激しい衝突。闘いの最中に響く、歌。駆け付けたジャーナリストさえもが排除されていく。そんな日本人同士の争いを見下ろす若い米兵たち……。本作があぶりだそうとするのは、さらにその向こうにいる何者かだ。復帰後40年経ってなお切りひろげられる沖縄の傷。沖縄の人々は一体誰と戦っているのか。抵抗も無く、絶望する大人たちの傍らで11才の少女が言う。「お父さんとお母さんが頑張れなくなったら、私が引き継いでいく。私は高江をあきらめない」。奪われた土地と海と空と引き換えに、私たち日本人は何を欲しているのか？

あしみなゆきね
当日は沖縄より「住民の会」代表として安次嶺雪音さん(松江市出身)が来場され、各回上映後に高江の現状についてのお話があります。(約15分程度)



と き: 7月5日

と ころ: 松江市市民活動センター
5階交流ホール (スティックビル)

託見いたします。3日までにお申し込みください。下記田中まで

上映時間

- ①10:00~11:30
- ②13:30~15:00
- ③18:30~20:00

と ころ: 標的の村/友の碑上映実行委員会/松江キネマ倶楽部

後 援: 朝日新聞、エフエム山陰、共同通信社、山陰ケーブルビジョン、山陰中央テレビ、山陰中央新報社、山陰放送、産経新聞社、島根日日新聞社、新日本海新聞社、中国新聞社、テレビ朝日、日本海テレビ、毎日新聞、読売新聞 (順不同)

★お問い合わせ: ☎ 090-3638-3675 (田中) /090-7990-9490 (山本・夜間)

「標的の村」から「友の碑」へ

『標的の村』『友の碑』上映実行委員会

日本や世界の未来を考えるために、沖縄の映画を！

沖縄では市内にヘリコプターが墜落しても、市民はおろか警察さえも立ち入ることさえできません。

米兵による犯罪は1995年の少女暴行事件をはじめ枚挙にいとまがありません。

『標的の村』とは、米軍が沖縄の民家をまさに「標的」として見立てて訓練していることからつけられた題名ですが、「標的」にされても住民は我慢するしかありません。

米軍施設が沖縄に集中する現状は「明らかに不公平であり、差別」(仲井眞沖縄県知事)です。しかし、日本政府は沖縄県民の意見よりも米国の意向をより尊重しているようにしか見えません。

これは何を意味するのでしょうか。

沖縄の現状は、琉球や沖縄が体験させられた過酷な歴史と、日本や世界が何かを犠牲にして成り立っている非情な現実を象徴しているのではないのでしょうか。日本や世界の未来を考える時に、この問題は避けて通れません。

ドキュメンタリー映画『標的の村』『友の碑』は、沖縄の過去、そして今を通じて、日本や世界の未来を見つめ直すきっかけを与えてくれるでしょう。

皆様のお越しをお待ちしています。

●沖縄に集中する米軍基地

現在、日本における米軍専用基地の大半は沖縄に集中しています。沖縄県の面積の約1割が米軍基地であり、今でもオスプレイが配備されるなど、米軍基地の拡充と半永久化が続いています。

それに加え、日米地位協定によって、米軍に対して日本の法律の効力が及ぶ範囲は限られています。米軍の施設や米兵の犯罪はもとより、米軍機の事故も日本側が調査することはできません。

沖縄全土が、沖縄(日本)であって沖縄(日本)ではないのです。

●なぜ沖縄に？～「捨て石」にされたままの沖縄

沖縄に米軍基地が集中する一因が、沖縄戦にあることは間違いありません。

第二次世界大戦時、日本軍は沖縄を本土決戦までの時間稼ぎ、「捨て石」にしました。

その結果、沖縄はアメリカに占拠され、米軍の管理下に置かれました。1950年代後半になると、本土での基地反対闘争などを受け、本土と離れて基地も作りやすい沖縄に基地が集中するようになりました。そして1972年の沖縄復帰以降も、沖縄では基地が残されたままなのです。

●沖縄戦における沖縄は

沖縄戦では日米あわせて20万人以上の犠牲が出たのですが、そのうちおよそ10万人は民間人でした。戦況の悪化とともに動員された男女合わせて2800人以上の沖縄の学徒も、多くは犠牲となりました。

「戦争は兵隊さんだけするものではない。一番被害を被るのは住民です。」(『友の碑』から)

『友の碑』は、この沖縄戦で補助看護師として動員された、当時16歳、沖縄県立第二高等女学生「白梅学徒隊」の生と死を描いた作品です。沖縄の女子学徒は「ひめゆり」や「白梅」など8隊に編成されて戦場に送られましたが、「白梅隊」では56名が動員され、22名が若い命を失ったのです。